

食中毒と腸管感染症

病原体が腸管内で増殖して下痢、その他の症状を起こす感染症。主に以下のような疾患が含まれる。

選択↓	原因微生物			(細菌の場合) 感染源としての宿主・生息域					備考	
	細菌	菌名	感染型/ 毒素型	水系・水生動物		土壌・植 物	陸生動物			
				海水(河 口付近含 む)	淡水		主にヒト (ほかに サル、マ ウス等)	食料生産 動物の感 染・保菌		
○		<i>Vibrio cholerae</i> のうちO1型以外の nonagglutinable vibrios	感染	○						
	×									
	×									
○		<i>Clostridium perfringens</i>	中間型又は感染型			○	○	○	ヒトや動物の大腸内常在菌。土壌に広く分布。	
○		<i>Yersinia enterocolitica</i> , <i>Y. pseudotuberculosis</i>	感染		○(汚染)			○	<i>P. pseudotuberculosis</i> は国内で豚からの検出及び市販豚肉の汚染が報告。	
		<i>Aeromonas hydrophila</i>	感染		○					
	※原因微生物が定義されていない									
○		主に <i>Campylobacter jejuni</i> , <i>C. coli</i>	感染		○(汚染)			○	牛、羊、野鳥及び鶏等の家禽類の腸管内に保菌。 <i>C. coli</i> は豚での保菌率が極めて高い。	
	×									
○		EPEC, EIEC, ETEC, EAEC	感染		○(汚染)			○	多くの血清型は健康な牛や豚の糞便中にみられる。	
		<i>Vibrio cholerae</i> O1 及びO139 型のうちコレラ毒素産生性の菌	感染	○	○					
		<i>S. dysenteriae</i> , <i>S. flexneri</i> , <i>S. boydii</i> , <i>S. sonnei</i>	感染		○			○		
○		<i>S. Typhi</i> , <i>S. Paratyphi-A</i> 以外。 <i>S. Enteritidis</i> , <i>S. Typhimurium</i> , <i>S. Oranienburg</i> 等	感染		○(汚染)			○	家畜(牛、豚、鶏)の腸管内に常在菌として保菌。	
	×									
		<i>Bacillus cereus</i>	中間			○	?(糞便から検出はされるが定着不明)	?(糞便から検出はされるが定着不明)	土壌などを中心に自然環境に広く分布。食肉・肉製品、牛乳・乳製品からの分離は二次汚染による。	
		<i>Aeromonas sobria</i>	感染		○					
		<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	感染	○						
○		EHEC	感染		○(汚染)			○	牛はSTECの保菌動物とみなされる。	
		<i>Salmonella Typhi</i> , <i>S. Paratyphi-A</i>	感染					○		
	×									
	×									
		<i>Vibrio fluvialis</i> , <i>V. furnissii</i>	感染	○						
○		<i>Staphylococcus aureus</i>	エンテロトキシンによる毒素型、それ以外の感染型					○	○	ヒトを取り巻く環境や各種の哺乳動物、鳥類等に広く分布。
		<i>Plesiomonas shigellois</i>	感染		○					

【参照】

国立感染症研究所. 食中毒と腸管感染症. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/route/intestinal.html>.
坂崎利一編. 新訂 食水系感染症と細菌性食中毒. 中央法規出版. 2000.